

## 高速道路に散乱するガラス瓶を 収集、リサイクルへ。



豊栄運輸株式会社

(愛知県甚目寺町)

佐藤豊和 社長

甚目寺町で、運送業や貸倉庫業とともに、一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬を営んでいる豊栄運輸株式会社を訪ね、佐藤社長にお話を伺いました。

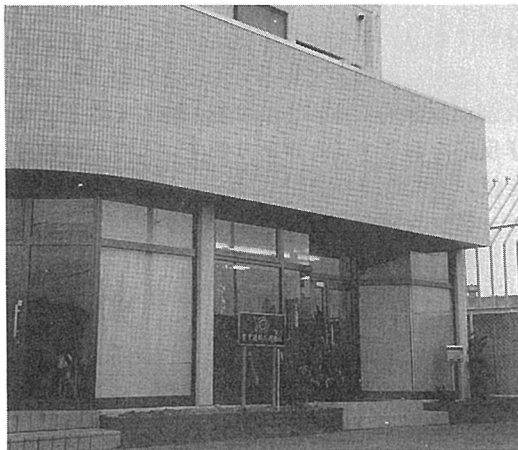
— まず、会社の成り立ちから教えてください。  
佐藤社長（以下、佐藤に略）『一般ごみを扱う佐藤商店としてスタートしまして、ガラス瓶のリサイクルを得意としています。回収したガラス瓶を色別に分けて、カレットにしてリサイクルします。5、6年前までは兵庫県の方にガラスの再生をすところがあったのでそちらに持ち込んでいました。当時は、かなり効率のいい有価物でしたが、最近は価値も大幅に下がりましたね。ですが、ガラス瓶は確実にリサイクルできるものですから続けています。また、ロードメンテナンスをする会社と連携して、高速道路に散乱するガラス瓶を回収しています。エリアは、滋賀県の県境から豊川、浜名湖、多治見あたりまで網羅しています。産廃の許可を取った頃は、最終処分場も持っていたんですが、もう満杯になりましたし、新たに処分場を確保するのはなかなか大変ですから、最終処分の許可は返上しましたよ。』

— 聞くところによりますと、地域との交流の一環として体験学習に協力していらっしゃるのか。

佐藤『町の商工会と学校からの依頼で、生徒さんを迎え入れてます。廃棄物積み込みの現場で収集作業を見学させたり、危ないこともあるんですがそこは注意をはらって、まあ社会勉強ですね。最後には質疑応答の時間をとって、終わった後には感想文が届きます。若い世代に廃棄物処理の必要性を認識してもらうには絶好の

機会だと思いますよ。感想文を読んでみると、生徒さんたちは、ごみに対する抵抗みたいなのはないようです。むしろ、いかにリサイクルすることができるかを真剣に考えていますね。彼らが育った何年か後には、廃棄物処理に対する見方が変わってくると思います。』

— 会社の将来計画についてお聞かせください。  
佐藤『うちはもともとは一般廃棄物の収集運搬で、徐々に一般貨物の業務が増えてきて、現在は貨物の比重が増えていますね。産廃の収集だけに力を注げないのが実情です。反面、リサイクルとしては、ある会社と提携してオリジナルの空き缶のプレス機を作って、プラント化を進めています。これは軌道に乗りはじめています。次はペットボトルの処分に取り組んでいます。共業という考え方も必要ですね。』



社名／豊栄運輸株式会社 所在地／愛知県海部郡甚目寺町大字新居屋字岩屋94  
代表者／佐藤豊和 創業／昭和47年 従業員／34名 TEL／052（441）1451  
事業所／本社、安城SPセンター  
営業種別／収集運搬 取扱い品目／廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず